

## 令和元年度北方四島交流第2回一般訪問事業に参加して

広島県地域女性団体連絡協議会 理事  
広島県廿日市市議会議員  
井上 佐智子

広島県地域女性団体連絡協議会（以下「県女連」という。）から、北方四島交流一般訪問事業の案内が来た当時、申し込みに当たって思ったのが、次の2点でした。

1点目は、この事業に参加し、北方領土を訪問することが、どのような社会的意義があるのか、まだ自分自身がきちんと捉えていないこと。

2点目は、この事業に参加したのち、北方領土返還運動に、私自身の人生にどのような関係性を保っていけるのか。

これらのことを思い、参加についてずいぶん逡巡しました。

しかし、訪問の機会は私にとってもいつもある訳ではなく、また、本来様々なことに興味を持つという性格のほうが勝ったようで、申し込みをしました。

事業は8月14日から19日ということでしたが、広島からの訪問団は遠いので、県女連の他の参加者とともに、13日から広島空港を飛び立つ用意をしていました。ところが、12日になって日本の盆休みを直撃した台風10号の影響で、突然、根室行きを1日早めるようにと県庁担当課から指示があり、慌ててすぐ航空チケットとホテルの手配を事務局にお願いし、12日の18時台の便でひとまず札幌に向かうこととなりました。

実は、訪問中もずっとこの台風10号の影響を受けることになりました。

12日には、遙か沖縄よりもっと南方に台風が発生したのですが、12日の18時台の飛行機で札幌を目指していた時に、北海道上空に差し掛かる前にパイロットが、現在上空1,000㌦の地点ですが、台風10号の影響で気流が乱れますとのアナウンスが流れ、自然の脅威をはるか上空で感じ、その脅威に恐怖を感じました。

このように、日本では、すぐに様々な情報をリアルタイムでとれることのありがたさを、後々痛感したのでした。

私のスマートフォン駆使技術では、北方領土では、スマートフォンの各種機能は使えずじまいで、カメラだけは使用出来ました。

また、この台風の影響で、色丹島への上陸は、2日間の予定が1日となり、とても残念でした。

### 公式行事の1日目の8月14日

根室市の千鳥会館に集合し、北海道立北方四島交流センターで団結式と事前研修会が開かれました。

この度の団長は、富山県民会議の大野久芳黒部市長で、副団長は元島民2世（水晶島）公益社団法人千島齒舞諸島居住者連盟（富山県民会議）の濱松禎高さ

んと紹介されました。

訪問団員数は 64 名で、「沖縄及び北方問題に対する特別委員会所属の衆議院議員 2 名、参議院議員 2 名、マスコミの方たち 4 名、また内閣府、外務省、農林水産省、独立行政法人北方領土問題対策協会の職員も多数参加されており、この北方四島交流一般訪問事業は、政府も組織横断的に取り組んでいる様が見て取れました。

事前学習会では、訪問団長の大野久芳黒部市長の熱い思いを聞かせていただき、北海道に続いて富山県黒部市には 600 名を超える島民の方がいらっしゃるなどの実態を聞くことができました。

更に東海大学の山田吉彦教授による北方四島問題について、講義がありました。ここでは、日本列島、特に日本海がいかにかロシア、中国、北朝鮮、韓国などにとって、軍事的に重要な海域であることが説明され、いつも見る世界地図をさかさまに似せてもらって説明を受けたときには、なるほどと納得できました。だからこそ、北方四島はロシアにとっては最重要地域の一つであると認識できたのでした。

千鳥会館は根室市庁舎の近くにあり、市庁舎には、「北方領土四島返還」の立て看板が掛けられていました。根室市の人口は、昭和 40 年代には 47,000 人前後だったのですが、現在は人口も半数近い 25,604 人となっています。

返還運動は根室市が率先して取り組んでおられる印象だったので、人口減少の状況を見て、北方四島返還運動は根室市だけに任せていてはいけない問題として印象に残りました。



千鳥会館と県女連の参加者



団長の黒部市長

## 2日目の8月15日

9時に根室港琴平川岸壁に係留されていた北方四島交流船「えとぴりか」に乗り込み根室港を出発、10:40に通過点（ロシア時間では12:40です。）に到着し、（国後島古釜布沖に到着）13:00に、船上で入域手続きを行いました。

その後、迎えに来た舩（はしけ）で上陸し、国後島の中心集落である古釜布（露名：ユジノクリリスク）に日本が建設した緊急避難所兼宿泊施設である「友好の家」で荷物を置いて、宿泊の準備をしました。はしけからカメラによる撮影は不可となり、港についても港湾内は撮影禁止で、少し緊張しました。警備も軍隊の人だったので余計緊張しました。

港から友好の家までの移動手段は、トラックバスという乗り物で、生活に使うバスとは大違いで、乗降に不便なまさにトラックでした。これには驚かされまし

た。高齢化率が低いからでしょう、75歳を過ぎた高齢者にはとても利用できないバスでした。よく見ると、このトラックバスは通勤用にも利用されていました。

私たちの国後島内での移動はすべて、このトラックバスでした。

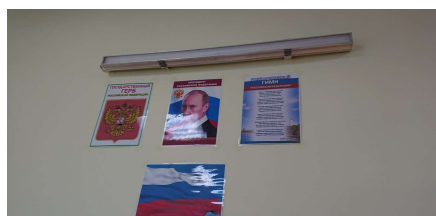
友好の家に宿泊ということで、船の宿から解放されて嬉しく、また、友好の家は質素な建物でした。そこに働くロシア人は気さくだったし、アルバイトは女学生（中学生）のようでした。また、よく働いていたという印象でした。

友好の家の食事はジャガイモ料理などロシア料理ですと通訳の方が説明してくれましたが量が多いのが特徴です。黒パンなど普段食べる機会のないパンも出てきました。料理は一般的に庶民的で食べやすかったです。

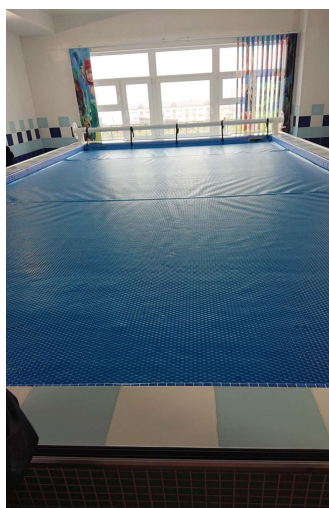
視察先は、友好の家と近く、幼稚園施設などは、ロシアからの支援はないかわりに、極東サハリン州からの支援で、将来オリンピック選手が出るようにとの願いをもって、近代的な温水プールがありました。子どもたちの数も増えていて幼児教育に力を入れているように見えました。



友好の家



幼稚園の中のプーチン大統領の肖像



幼稚園内温水プール



島民の方達との交流事業

### 3,4日目の8月16,17日

国後島で島のロシアの家族との交流がありました。

50インチの大型テレビ、室内の器械体操設備、室内映画装置、お嬢さんによるピアノの演奏と、所得水準の高さが見て取れました。

国後島の若い人たちは大学が島にないので、サハリンなどの大学に進学したら卒業しても国後島に帰ってこないことが多いそうで、日本の地方都市や田舎

と一緒のようです。

モスクワ放送の関係者も取材に来られていて、友好的なおもてなしを受けました。

また、男の子や、いとこの人たちもきていて、フラミンゴの書き方を教えてくれるなど、人柄は純朴でした。この人たちは、日本の元号で言うと、平成21年生まれで、北方領土の帰属について学んだのか、学んだとしても戦争で勝ったからロシアのものになったと信じて疑わないだろうと思いました。

国後島の人々は、トラックバスを交通手段としているのをみてもわかるように、高齢者が少ないのだと思います。また、国後島には高等学校がないため、中学校の卒業生の多くは樺太島のユジノサハリンスクの高校へ進学し、国後島に帰っても仕事がないため、そのまま定住することが多いとのことでした。

政府は、Uターン者の施策をとっているとのことだが、うまくいっていないらしく、それは日本の中山間地や過疎地域も同じです。

帰りによく見ると、素晴らしい内装とインテリアの家は、実はコンテナだったようで、その差に驚きました。

その日も国後島の友好の家に宿泊です。団員ともいろいろはなしができるようになり、これは嬉しいことでした。



交流家庭での交流の様子

### 5日目の8月18日

色丹島 日本人の墓参りと、小さな店でのショッピング。

大きな工場があり、魚介類の缶詰工場のような様子でした。

しかし人通りは少なく、結局、国後島でも、色丹島でも、あまり人に会うことがなかったというのが印象に残りました。

ここでは移動にタクシーを使いましたが、運転手がスマホに自分がとった風景写真をたくさん見せてくれました。

本当に美しい風景でした。

戦前は、このようなところで、日本人の人たちはワカメを取ったりカニを取ったり、寒冷地のきびしい自然の中でも豊富な海の幸と美しい自然の中で暮らしておられたのだなあと、しみじみ思いました。

タクシーの運転手は、明るい人柄で、盛んに自分の写真を見てほしいとアピールしていました。

帰国後、折しも日本とロシアとで、北方四島で日露共同経済活動の試行事業として国後島で観光ツアーしようというニュースも飛び込んできました。

きっとヒットすると思いますが、課題ははしけを利用しなければ国後島に上

陸できないことだと思いました。



色丹島の日本人の墓参り



廃棄物は山積み

### 6日目の8月19日

出域手続き、帰団式、12:50 通過点、12:00 入港、代表団は記者会見に臨みました。

この訪問ツアーに参加して一番印象に残ったことは、島民 2 世の島民の女性が語られた言葉です。

北方四島返還運動を、2 島返還などという対応をしたら、竹島問題も、尖閣諸島問題も、日本は既成事実をつくったら諦める国だ、と思われてどの問題も押し切られてしまうと考えている、との言葉でした。

当事者の方たちがそういう思いで活動しておられる限り、私もその考えに共感していきたいと思いました。

このような機会を与えてくださって、ありがとうございました。感謝いたします。



中央が島民 2 世の女性



戦前の国後島の日本人